112 学年度第一学期ユーラシア財団（from Asia）国際講座
「アジア共同体：東アジア学の構築と変容」シリーズ講座（15）
テーマ：中国・日本・朝鮮の開港と東アジアの近代

諸洪一 教授（第十五講座 / 要約）
2023.12.21

はじめに

阿片戦争、黒船の来航、江華島事件の後、中日韓三国はいわゆる「近代」に突入しました。西洋文明と勢力が東アジアの各国に大きな衝撃を与えました。西洋世界が導入した規則や規定は、東アジア三国を複雑な「現代」の闘いへと導きました。

一、19世紀の中・日・朝における「近代」

1.中國

1842 年 阿片戦争(南京条約)。中国は欧米列強の武力による脅威を十分認識することができませんでした。

洋務運動⇒維新（変法）運動⇒革命運動⇒抗日戦争

2.日本

鴉片戦争や西洋勢力の東進に衝撃を受けたのは中国よりもむしろ日本でした。

1854 年 ペリー来航⇒(日米和親条約)

明治維新⇒(日清・日露戦争、第一次世界大戦)⇒15 年戦争（アジア・太平洋戦争)

3.朝鮮

1876 年 江華島事件⇒（日朝修好条規）

近代化運動⇒中国と日本の干渉⇒日本の侵略(日韓併合)

二、西洋勢力の東進:東アジア三国の対応

日本の「明治維新」の成功物語は、「鎖国から開国へ」という図式を通じて「現代性」を表現しました。日本は武士社会の一面を持ち、大国からの軍事的な脅威に非常に敏感であり、西洋との力の差を認識し、積極的に西洋文明を学ぼうとしました。しかし、諸教授は有馬学教授の学説を引用し、「維新言説の

歴史的変遷は、何事かを仮託する歴史から普通の歴史へと明治維新像を解放する動きであった・・・つまり、明治維新は、特別な歴史から普通の歴史へ変わっていく」と述べています。即ち、明治維新の歴史は「勝者が王である」という神話によって形成されたものです。それに対して、中国と韓国は「現代性」の過程において内戦や挫折に苦しんできましたが、彼らの「現代性」への理解は日本を超えることはないようです。朝鮮も同様であり、その後も中国に朝貢していました。

三、東アジア三国は「近代」と「現代」をどのように捉えてきたか

所謂「近代」「現代」および明治維新は、現在の中国、日本、韓国の小学校、中学校、高校の教科書、小説、研究書籍にどのように反映されているのか。中国では、「近代」以前に「自己保護と国境を数千年閉鎖した伝統のある」という歴史が存在しています。これは日本や韓国が「国家孤立」を考える方法と大きな違いはありません。現在、日本は「閉鎖から開放への構え」を克服しようとしています。この講座は、東アジア三国における「現代性」を見直し、克服し、道を見つけるための共同の考え方を皆さんと共有しようとしています。

中国語のめとめ:徐　興慶

日本語翻訳：陳　順益

2023.12.28